

2019年5月14日

各位

会社名 ミナトホールディングス株式会社  
 代表者 代表取締役社長 若山 健彦  
 (東証 JASDAQ コード: 6862)  
 問合せ先 執行役員経営企画部門長 三宅 哲史  
 (TEL 03-5847-2030)

**業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ**

2018年5月11日に公表しました2019年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異  
 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,500	265	220	170	22.87
実績値(B)	15,850	237	193	105	14.22
増減額(B-A)	1,350	△27	△26	△64	
増減率(%)	9.3	△10.5	△12.1	△37.7	
(ご参考) 前期通期実績 (2018年3月期)	13,886	252	176	151	20.66

※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、2018年3月期の1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

2. 差異の理由

メモリーモジュール関連事業において、NANDについては新世代品の歩留り向上とスマートフォンの出荷量の減少により価格の下落が続いており、DRAMにおいても牽引役であったサーバー需要が減少し、引き続き価格が下落しておりますが、国内スマートフォンメーカー向けのフラッシュ製品販売やDIMM及びSSD以外の製品販売にも注力した結果、同事業は前連結会計年度と比べ増収増益で推移いたしました。一方でデバイスプログラミング・ディスプレイ

ソリューション関連事業は、利益率の高いプログラマ本体関連が低調だったほか、大手ディスプレイメーカー様や交通・公共機関向け大型タッチパネル、自動販売機やアミューズメント向けの中小型タッチパネルの販売が前連結会計年度を下回る実績となりました。

これらの結果、売上高は前回発表予想と比べ1,350百万円(9.3%)増の15,850百万円、営業利益は前回発表予想と比べ27百万円(10.5%)減の237百万円となりました。

また、営業外収益として当連結会計年度における為替変動により、当社グループが保有する外貨建資産価値が増加したことによる為替差益11百万円を計上したものの、営業外費用としてシンジケートローン手数料37百万円や、2018年5月に持分法適用関連会社化した日本サインホールディングス株式会社に対する投資損失12百万円を計上したことにより、経常利益は前回発表予想と比べ26百万円(12.1%)減の193百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前連結会計年度では連結納税制度の適用開始に伴い繰延税金資産を計上し、法人税等調整額△31百万円を計上しましたが、当連結会計年度は今後の事業環境の見通しを含め精査を行った結果、繰延税金資産の取り崩しを行い法人税等調整額を15百万円計上しました。その結果、法人税等合計が前連結会計年度と比べ増加したこともあり、前回発表予想と比べ64百万円(37.7%)減の105百万円となりました。

以上